不破治治部左衛門嫡子

江戸御邸内、此度の疫氣不相煩有之や御尋の所に、主従たるもの一人も無煩者無之候。割場支配の内足輕小頭一人、足輕八人、役小人迄の内二人、以上十一人有之旨。

一、啞啄の字意

啞啄二字、世俗云傳るは雞子欲生卵中より其子卵を破ると、母雞外より卵を破ると、適然として相遇ふ。之を啞啄と云と。故に人の不圖して欲問來るをも啞啄の事とす。朱子語類云。九子聖人與天爲一。先後相應不差毫釐。因說。人常云如雞覆子。啞啄同時。不知是如此否。時學云。家間養雞。時學爲兒童。日候其雞之出。見他母初未嘗啄。蓋氣數方足便自橫迸裂開。有時見其出之不利。因用手略助之。則其子下來。便不長進。以此見得。這裏一毫人力有不能與。先生笑而然之。

一、室鳩巢仲秋の詩等

癸丑年仲秋三首

天上桂華夕。人間梧葉秋。絳河浮左界。明月照南樓。獨酌醞臺酒。不忘燕市遊。老來多感慨。空有思悠悠。

ば、わづらはしき折ふしは、師によりて其患を救ひしこと、いくたびといふ事をしらず、師わかきより和歌を好みて、よめる歌おほく世に取傳へける。其人がらもまめやかにして、さすがいとやさしかりける程に、余も日ごろへだてなくいひかよはして、はやはたとせばかりになりぬ。余と同じ程のよはひなりしが、年にも似ず猶わかく見えて、行歩も健かなりけるに、こぞの秋かよ、にはかに中風のわづらひあるよし、告しらせければ、いそぎ走り行ても問まほしく思ひしかども、我身も此三とせ立居もかなはず、死なぬばかりの身なりければ、折々人してとはせけるばかりになむありける。かくてきのふけふと過ける程に、もと住し宿、あすか川の瀬になんかはりつゝ、あたりちかきところに移りけるが、身のわづらはしきにそへて、いかばかり心うかるらんと、よそにきくさへかなしかりける。とかくして日かず経るまゝに、同じさまにて年も越えければ、さであるべしとこそおもひしに、ことし五月十一日、にはかにさしつまりて、身まかりぬるよし聞く。たゞ夢のやうに覺えながら、老のなみだ抑へがたし。其後師の子なりける

家々今夜宴。共樂泰平時。川媚娥生水。林明鵲噪枝。十千除美酒。三五惜佳期。借問騷人思。何如壯士悲。

登樓新霽好。月下望無窮。鰲背三山湧。鷗邊兩國通。金波流大陸。玉管上遙空。寄語人寰外。清光幾處同。

此夜又別賦言懷二首

天鏡高懸海上頭。遙々照此讀書樓。我心別有二輪月。徑寸中藏古今秋。

大都無復紅塵市。今夜變爲白玉京。朝野萬家同一照。願將明月答昇平。

當秋以來積雨の所、中秋の夜新霽月殊の外宜候。家人誘引中堂に出候て、宵の内賞遊候故難默止、二三首賦候間書付進候。然處翌日より又雨に罷成、只今に至候て未晴候。こまり果たる事にて候。八月廿九日。

一、室鳩巢、谷崎勾當をいたむ詞

江戸向の岡のほとりに、谷崎勾當とてひとりの醫師ありける。九針の術をつたへて、人の病を治療しければ、同郷近隣、家に病患あれば必ず師をこひ迎へぬはなし。余が草堂も師のがり近かりけるが、もとより衰老多病の身なれば。

人の、師の辭世によめるとて、和歌二首かきつけてこしける其歌に。

今日までは渡り來にける世の中をおもへば長き夢の浮橋又郭公のなきてとほりければ。

けふは猶あはれとぞきく今はとてこえゆく死出の山郭公日ごろすける道とて、今はのきはまで、思ひいでてよみおける事のはれに覺えて、いくたびか涙ながらに打吟じてやまざりしが、さてもありし世の事をおもひいづれば、さながら今もあふ心地して、たゞにやまんもほいなく覺えければ。

山川城郭自依々。空恨遼東鶴不歸。高唱尙餘郡中曲。陽春白雲濕入衣。

今は世に歸らぬ人の面かけをなみだにかへす袖のうら波又かゝる時、郭公のなかにさへこゝろをよせけるよと、優にやさしくも覺え、且は臨終のこゝろ正しく、目出たかりし事までおもひしられて、いとゞあはれを催しければ、又かくなむ。

郭公なかむかぎりは世の中にあはれはつきじ君が言の葉